全国委通信
No 197
1970 1-13
日本大学歯共闘
医学部闘争委員会

合法組織の非合法化を
再び仲間の連合を！

・安保・中縄闘争勝利！
・地区解放闘争勝利！
・帝国主義大学体制解体！
・古田体制打倒！

六九年、六月以降日大闘争を闘い抜き、帝国主義者に追る負を引き出す中から万日更なる闘いを組まんとしている多くの学友諸君！

日大闘争は個別矛盾（二十億問題に関等々）に端を発したものであったが、大学そのものが万日支配の一翼を担う重要な環としてあったが故に必然的に帝国主義者との対決を余儀なくされてきたのであるが、そうであるからという て個別日大闘争を放棄する中で政治全体主義的に政治闘争を闘い抜けば良いということにはならないだろう。我々が個別闘争を徹底的に闘い抜き個別目標を万最大限かち本質的矛盾を追求する中で帝国主義者に追る負を引き出しつつ、安保・沖縄の全局の闘いを保証していく部隊となり得るのではないか。

現在、我々の闘いは権力・大学当局・関連産等の一体化された弾圧と正常化路線＝古田体制強化（帝国主義大学体制強化）の中にあって後退を余儀なくされているのだが、その中で我々は何をなすべきか、先ず、個々の不満、学部内の具体的な諸問題等を明確に把握し、学内合法組織（ゼミ・サークル・クラス等）を利用しつつ、その合法組織の強化・拡大を計れ、場所的学内合法拠点（学内合法組織活動場所）を保障すべく強化・拡大を計れ。また、合法組織それ自体では古田体制内のボリタム合法組織のそのものとしてしか機能し得ないが故に合法組織を非合法組織化せよ。場所的学内合法拠点の確立と追求の中から非合法化せよ。

また、遠く離学の地にあって、校舎の閉鎖は、敵全組で囲われ、学内には取員が常駐の如く徘徊し、各クラスには御用学生を配置し、学友を分断するために支配する中でストライキに入るといった超反動体制がしかれている。その中にあって藤大の学友自身が藤法反動体制を打破し、粉砕しようとする運動を起しつつある。我々はそれらの運動を支援しつつ、連帯しつつ、藤大の学友と共に藤法校舎を解放していかなければならない。また、現在日大闘争を主体的に担ってきた新四年生が卒業していこうとする中にあって、地区組織作成の問題がさし迫った問題として提起されるのではないだろうか。すなわち中央権力闘争を闘い抜くことによって大衆を流動化し、左右両極分解をなし、戦略課題として感性化された大衆を党の総路線の下に集約していく、それが為にどんなに激烈に闘いを組もうと、その地区には何ら万日という形でその地区を権力側に集約されてしまう。すなわち、我々が万日においては自警団と化していて、超階層的な革命戦略は有り得ないし、中央権力所在地も設定し得ない。つまり中央権力孤立奪取・一点突破の闘いの中で帝国主義者に包囲を狭められるサイクルより脱皮し、地区解放総反乱の闘いを導く中で帝国主義者を包囲し返すというサイクルの中から地区解放闘争の課題が必然的に導き出される。そういう中で、我々は中央権力・政治集会闘争を地区組織作成・強化・拡大という形で戦術利用として位置付ける。地区組織作成→地区結合→地区解放→総反乱、を導くべく地区解放・組織作成へ向けて新血建協を作成せよ。